

第3回

塩田庁舎等利活用検討委員会 資料

～塩田庁舎について～

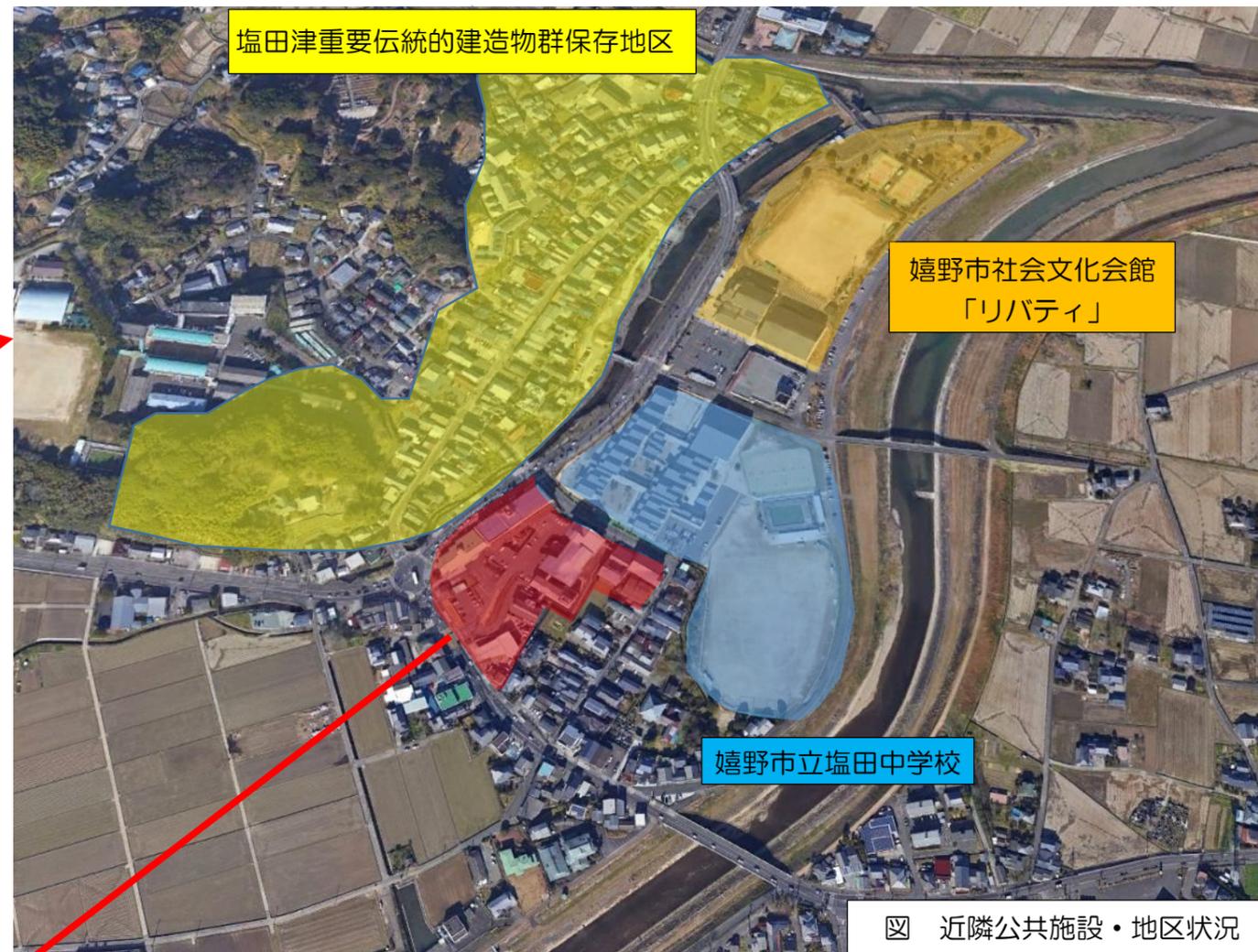
令和5年3月

庁舎の近隣には下記のような施設が整備され、伝統的建造物群保存地区が北側に位置します。

【塩田庁舎の位置】

現在の市庁舎は、塩田庁舎（旧塩田町役場）は塩田町、嬉野庁舎（旧嬉野町役場）は嬉野町に位置しています。

両庁舎間は10kmほどで、自動車では15分から20分程度の移動時間を要する位置に立地しています。



庁舎の同一敷地内には下記公共施設が整備されています。



施設名称	主な機能・構成	構造	階数	延床(m ²)	築年数	耐震
塩田庁舎	窓口、執務室、会議室、議場	RC	4	4,082	29	不要
嬉野市中央公民館・塩田公民館	生涯学習、研修会等の活用スペース	RC	3	2,022	44	未
嬉野市社会文化会館「リパティ」	文化ホール、控室、メインアリーナ、サブアリーナ、リハーサル室、会議室	S	3	4,684	8	不要
塩田中学校	校舎、体育館、武道場など	S	2	8,436	8	不要
図書館・歴史民俗資料館	図書館、展示室、収蔵庫	RC	2	1,104	35	不要
嬉野市保健センター（塩田保健センター）	会議室、事務室、健診・診断・相談	RC	3	1,263	24	不要

築40年以上
 築20年以上

【伝統的建造物群保存地区】

茅葺屋根の集落、武家屋敷群、重厚な土蔵造など昔の繁栄を偲ばせる商家の町並などを、周囲の環境と一体をなして歴史的な風致を形成している伝統的な建造物群として、一体をなして歴史的価値を形成する環境を含めて保存する「伝統的建造物群保存地区」制度（文化財保護法）、が適用された町並み。

塩田庁舎に配置されている部課局及び職員数は下記のとおりです。住民票や保険などの市民窓口は、市民福祉部の3つの課が担当しています。また、それらの課は庁舎1階に配置しています。
 (※黄色ハッチ部・課は嬉野庁舎に配置)

表 塩田庁舎 部課・人員配置一覧表 (令和4年10月現在)

部等名	課名	塩田庁舎				
		一般職員	再任用職員	任期付き職員	会計年度任用職員	計
3役	3役	3				3
部長	部長	5				5
経営部 行政	総務・防災課	6	1	4	1	12
	財政課	6			1	7
	税務課					
推進部 総合戦略	企画政策課	9	1		5	15
	広報・広聴課	7		2		9
	文化・スポーツ振興課	4	1		4	9
	SAGA2024 推進課					
市民福祉部	市民課	5	1		6	12
	健康づくり課	19		1	12	32
	子育て未来課	8	1	3	10	22
	福祉課					
振興部 産業	農業政策課	6		1	3	10
	茶業振興課					
	観光商工課					
建設部	建設課					
	農林整備課					
	新幹線・まちづくり課					
	環境下水道課				1	1
局	会計課	4			1	5
	議会事務局	3			1	4
	監査委員事務局	1	1			2
	選挙管理委員会事務局	1				1
	農業委員会事務局	1		1	1	3
教育部	教育総務課	6		5	50	61
	学校教育課	4			60	64
	計	98	6	17	156	277



【嬉野市各計画との関連】

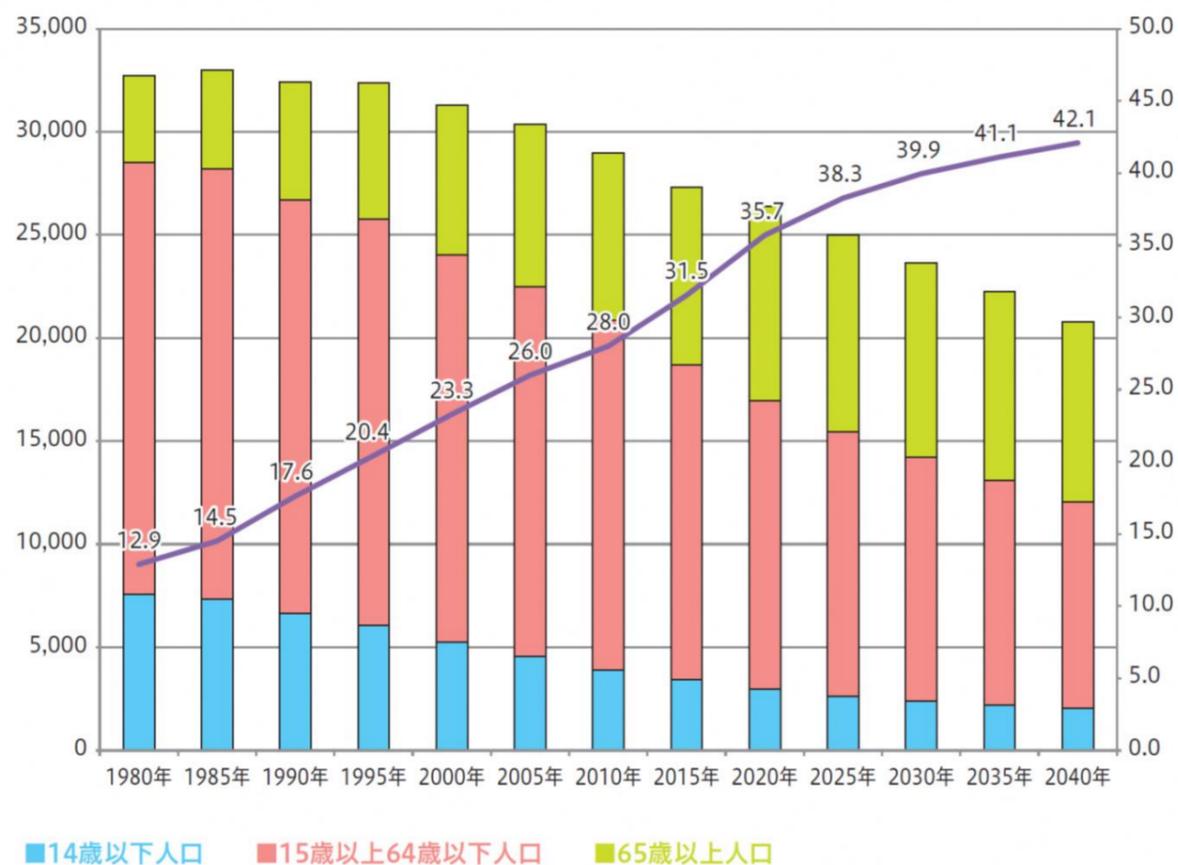
A：第2次嬉野市総合計画「歓喜が響きあう嬉野市」後期基本計画

【計画期間令和4（2022）年～令和7（2025）年】

(1) 人口ビジョン

国勢調査の結果によると、嬉野市の人口は1985年（昭和60年）の調査をピークに減少が続いています。全人口に占める高齢者の割合も増加しており、1980年（昭和55年）に約13%であった65歳以上の人口は、2015年（平成27年）には30%を超えるまでに増加しています。

また、「国立社会保障・人口問題研究所」の人口推計によれば、今後更に人口の減少傾向が続く見通しです。2015年（平成27年）に約27,300人だった嬉野市の人口は、2040年には約20,800人にまで減少すると予測されています。人口減少とともに高齢化の更なる進展も見込まれ、2040年の65歳以上の人口の割合は40%を超えるものと予測されています。



※折れ線グラフは全人口に対する65歳以上人口の占める割合

※資料：第2次嬉野市総合計画「歓喜が響きあう嬉野市」後期基本計画

人口ビジョンでは、2025年に定住人口25,200人を目指しています。

出生率の上昇や転出抑制等に取り組み、2025年に25,200人以上を維持することを目標としていますが、現状よりも人口減少が進むことは免れない状況です。

このような中で地域が活力を維持しながら持続していくためには、定住人口だけでなく、本市を訪れる人（交流人口）の増加を図ることが重要です。これは、一時的な地域活性化という視点だけでなく、移住人口を増やすための一つの方策となり得ると考えられます。

本市ではこのような観点から、人口ビジョンの将来目標として「定住人口」に加え「交流人口（観光入込客数）」も設定することとします。交流人口については、新型コロナウイルスの影響もあり先が見えない状況にありますが、2025年の目標を変更することなく、アフターコロナの観光需要に備えていく必要があります。

●嬉野市を訪れた方の行動とその波及効果のイメージ



期待される効果

- ① リピーターになってくれる
- ② 周囲に嬉野市を宣伝してくれる(口コミ)
- ③ 移住先として検討してくれる
- ④ ふるさと納税などで応援してくれる

2022年1月～2023年1月の1年間の人口推移は下記の通りです。いずれの地区も減少しています。

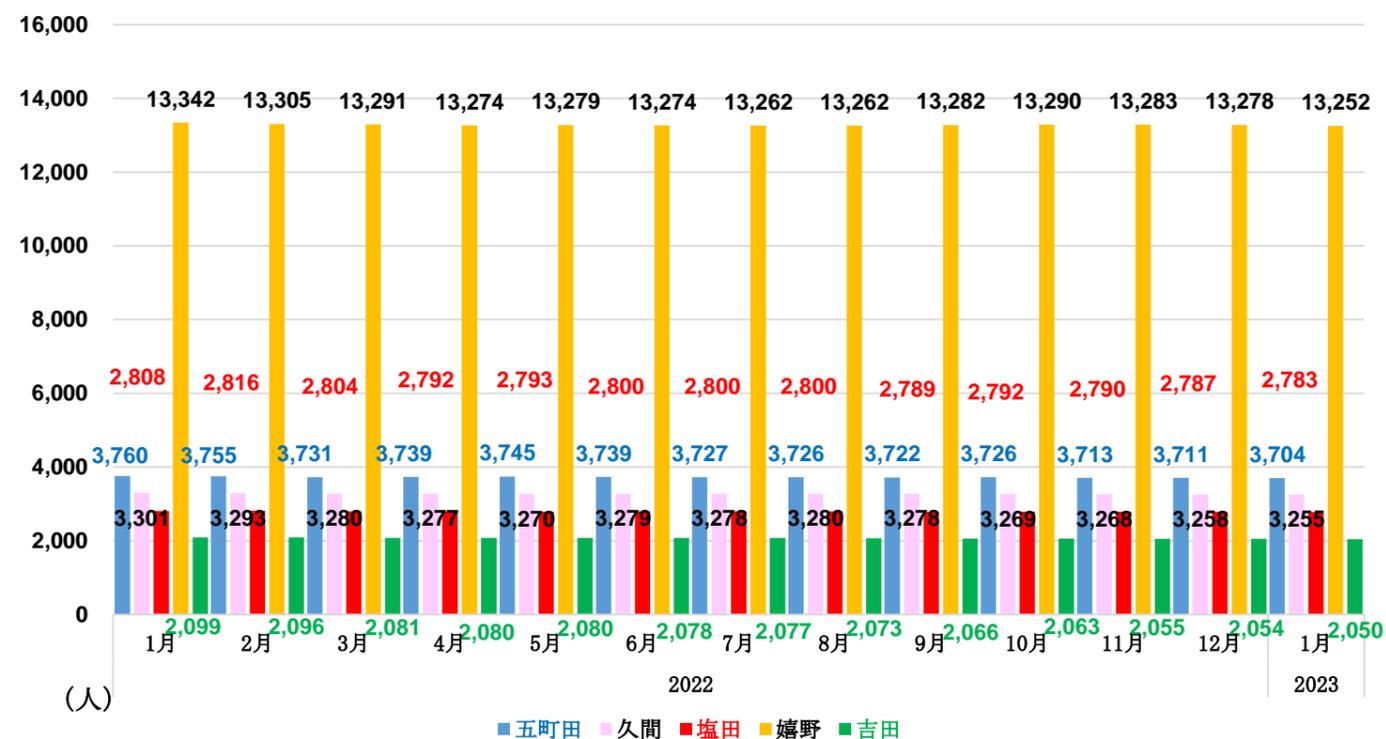


図 2022年1月～2023年1月までの地区別人口推移

(2) まちづくりの基本方針

市では以下の総合的かつ計画的に取り組む、6つの分野別政策として基本方針を掲げています。どの政策も塩田庁舎の利活用と関連づけることができます。

表 まちづくりの基本方針

分野別政策	方針
福祉・健康づくり	ともに支え、笑顔あふれるまちづくり
自然・都市・生活環境	自然と調和、快適住生活のまちづくり
安全・安心	助け合う、安全・安心のまちづくり
産業・経済	進化と創造、活力みなぎるまちづくり
教育・文化・スポーツ	しなやかでたくましい、「人」育むまちづくり
まちづくり体制	みんなで創る、自発のまちづくり

福祉・健康づくり～ともに支え、笑顔あふれるまちづくり～

子どもを安心して生み育てることができ、子どもが笑顔で健やかに育つ環境を整備します。

また、市民一人ひとりが心と体の健康を保ち、いつまでも元気でいられるように健康づくりを推進するとともに、すべての人がその人らしく生き生きとした生活を送ることができるように福祉サービスや社会保障の充実に努めます。地域に住む人たちが互いに支え合いながら、地域で困っている人や悩んでいることを一つひとつなくし、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域社会を創り上げます。

自然・都市・生活環境～自然と調和、快適住生活のまちづくり～

自然を守り楽しみながら、計画的な都市整備によって嬉野市の魅力を高めます。快適で住みやすい良好な住環境を確保するため、景観整備、上・下水道や公園・道路などの整備・老朽化対策を推進します。

また、利便性と効率を両立する公共交通の維持に努めます。九州新幹線西九州ルートの開業で嬉野市は大きく飛躍しています。新幹線嬉野温泉駅を中心とした魅力あふれ人々が集まる交流拠点・駅周辺を整備するとともに、人々が周遊できる交通ネットワークの形成に努めます。

安全・安心～助け合う、安全・安心のまちづくり～

誰もが安全で安心して暮らせるよう、自助・共助・公助による活動を推進し、更なる災害対策や防犯対策の強化に努めます。災害に対する意識の高揚を図りながら、地震や水害などの自然災害の被害を軽減する災害に強いまちづくりを推進します。

地域との協働による、市民を主役とした防災・防犯対策を実践するとともに、消防・警察などと緊密に連携し、緊急時には迅速かつ適切に対応できる体制を構築します。市民と行政が一体となり、安全・安心な生活を守ります。

産業・経済～進化と創造、活力みなぎるまちづくり～

嬉野市固有の観光資源を伝統を守りながら新たな視点や組み合わせで活用し、歴史と新しさが融合する魅力ある観光地づくりを進めます。また、中小企業をはじめ地場産業の更なる振興を図るほか、企業誘致の促進などに継続的に取り組みます。

農業においては、世界に通用する生産基盤づくりを進めるとともに、担い手の育成や確保、農地合理化を図るなど次世代に繋がる農業を実現します。

そして、農・商工・観光が交流・連携することで、嬉野ブランドの更なる向上を図ります。

教育・文化・スポーツ～しなやかでたくましい、「人」育むまちづくり～

「学力」のみならず「心」と「体」を育む学校教育を推進します。学校独自の特色ある取組を推進するとともに、学校・家庭・地域が連携しながら、人のつながりやふるさとの良さを感じることができる個性豊かな子どもたちを育成します。また、子どもから高齢者まで生涯をとおした多様なニーズに対応する学習機会の提供に努めるほか、豊富な文化・芸術を楽しめる暮らし環境を整備します。

運動施設の整備、スポーツ団体の活動支援、スポーツ交流イベントの開催などにより、子どものころからスポーツに親しみ習慣化できる環境を創出します。

まちづくり体制～みんなで創る、自発のまちづくり～

人権尊重社会と男女共同参画社会の確立に向け、着実に事業を推進します。

また、多様なまちづくり分野において、自助・共助・公助を基本とし、地域活動やボランティア活動をはじめ市民と行政による協働によるまちづくりを進めます。

そして、「量」から「質」の改革による行政経営へ軸足を移し、新しい時代に対応する行政サービスの整備、公共施設の集約や機能複合化の推進など、将来にわたり持続可能な行財政運営の実現に向け最善を尽くします。

B：嬉野市立地適正化計画【平成30（2018）年公表】

（1）嬉野市立地適正化計画とは？

「嬉野市立地適正化計画」とは、嬉野市の特性に応じた持続可能な都市構造の構築及び誰もが安心して暮らせる快適な生活環境の実現に向けて、居住誘導区域及び都市機能誘導区域の設定、公共交通ネットワークとの連携によるまちづくりの方針等を示すものとして平成30年3月に策定された計画です。

策定に当たっては「嬉野市総合計画 後期基本計画」および「嬉野市都市計画マスタープラン」などとの整合を図って策定されています。

施設の立地状況や交通ネットワークを踏まえ、都市計画マスタープランにおいて将来都市構造図が、以下のとおり設定されています。

（2）居住誘導区域とは？

都市再生を図るため、居住を誘導すべき区域として立地適正化計画で定められる区域で、「都市再生特別措置法」に基づく制度です。

（3）都市機能誘導区域とは？

都市再生を図るため、医療施設、福祉施設、商業施設などの都市機能増進施設の立地を誘導すべき区域として立地適正化計画で定められる区域で、「都市再生特別措置法」に基づく制度です。

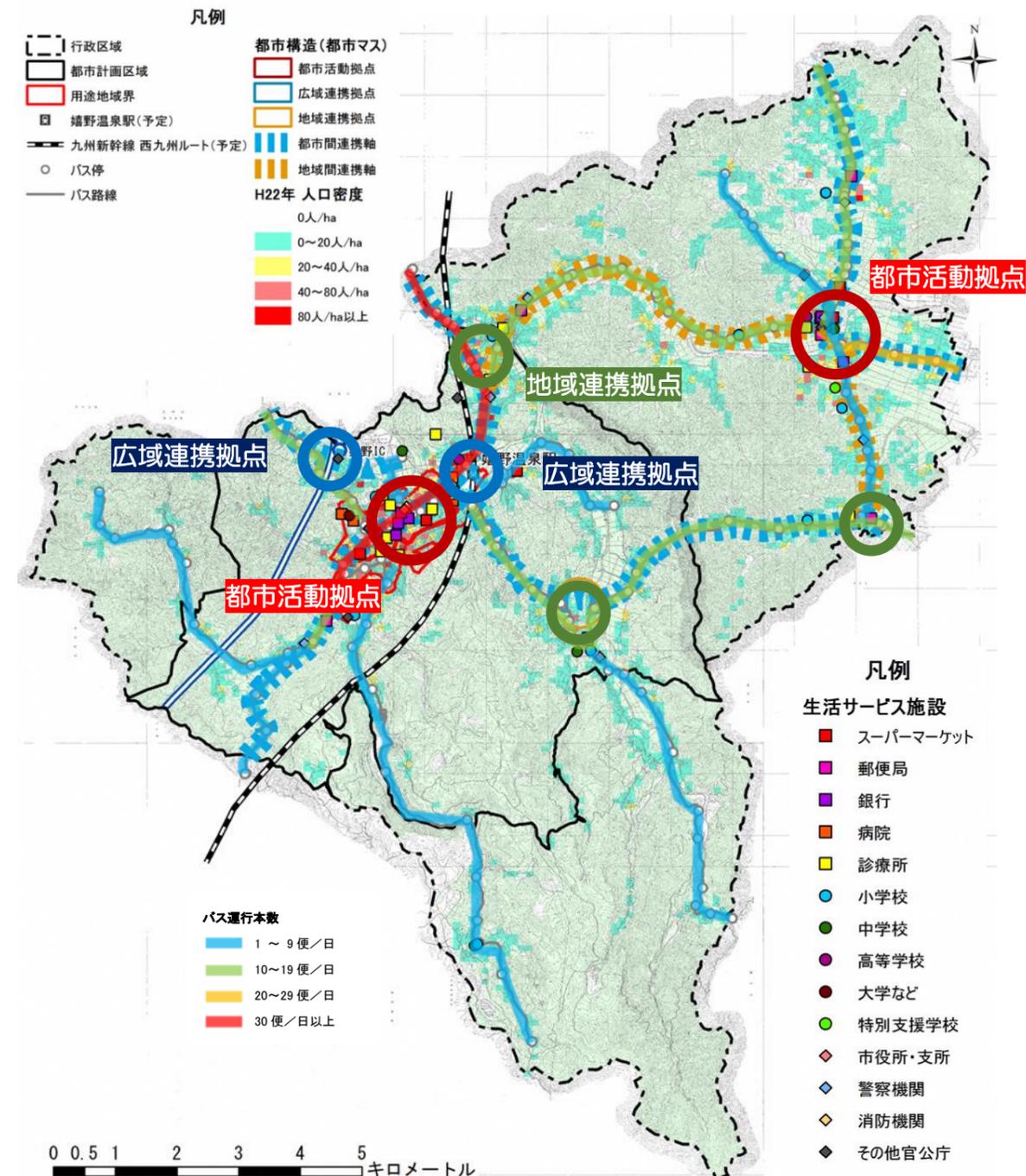


図 将来都市構造図

表 嬉野市立地適正化計画による都市構造設定（図参照）

	特性	概ねの区域	凡例
都市中核拠点	・市役所等の公共施設が立地 ・医療・福祉・商業等の生活サービス施設が集積 ・市内の各地域から公共交通を用いてアクセスしやすい ・人口が高密度で集積	・用途地域内（嬉野バスセンター、嬉野温泉駅周辺等）	
居住誘導ゾーン	・都市中核拠点周辺の人口が集積している区域	・用途地域	
地域中核拠点	・市役所等の公共施設が立地 ・医療・福祉・商業等の生活サービス施設が立地 ・市内の各地域から公共交通を用いてアクセスしやすい	・塩田庁舎周辺	
地域拠点	・生活サービス施設が一定程度立地 ・人口が一定程度集積 ・民間の公共交通において拠点間を連絡	・久間 ・大草野 ・吉田	
集落ゾーン	・人口密度の低い集落 ・廃止代替バス路線や乗合いタクシーで各拠点を連絡	・各集落	
公共交通軸	・現行の公共バス等の運行経路		

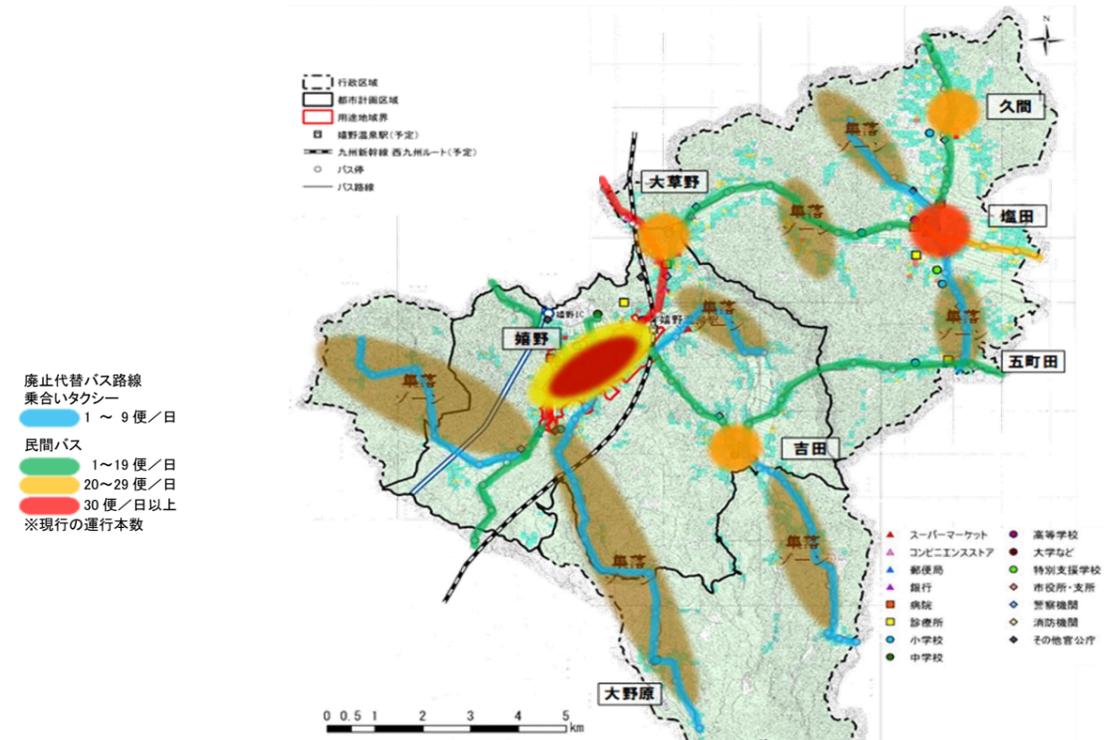


図 都市構造設定図

C：嬉野市都市計画マスタープラン（平成24年（2012）策定）

【平成24年（2012）～令和20年（2030）】

嬉野市都市計画マスタープランの地域別構想には、塩田街道地域の街づくりの方針を取りまとめています。

（1）塩田街道地域の現状・特性

本地域は、国道498号と塩田川が接近する塩田宿付近に塩田庁舎をはじめとする主要な都市機能・施設が集積し、旧長崎街道のルートに沿って生活環境が形成されています。

（地域の特性）

位置づけ	○地域文化創造拠点エリア、市街地形成ゾーン、田園環境共生ゾーン、自然環境保全ゾーン、都市活動拠点、産業振興拠点
自然・緑	○塩田川を軸として有明海側に開ける平野部に稲作を中心とした農地が広がっており、その南北に配置する丘陵地・山地に森林が保たれている。
歴史・文化	○長崎街道を軸に、塩田宿や志田焼の倉庫群、社寺、集落が点在しており、塩田津伝建地区をはじめ、歴史的町並みが残っている。
産業	○塩田津の川湊の海運業が発達したほか、焼き物や酒造りが営まれてきた。
土地利用	○焼き物や日本酒づくりなど、地場に根ざした産業が発達してきた。
都市基盤	○久間工業団地が整備され、製造業などの立地がみられる。
都市基盤施設	○全域が都市計画区域外にあるが、国道498号や（主）嬉野塩田線を軸とし都市的土地利用が進んでいる。
地域資源	○有明海側に開けた平野部に農地が広がっている。

（2）塩田街道地域の課題

（地域の役割）

価値観が多様化する時代において、地域の歴史と生活文化を活かし、独創的な生活様式を創出・発信する魅力的な交流拠点の形成。

〈基本的課題〉

- 地域の独創的な生活様式に対応した都市機能の維持・充実
- 塩田津伝建地区をはじめとする長崎街道時代の歴史・文化資源の活用
- 広域的な集客力を高める魅力的な都市環境と独自性のある生活文化の創造

（3）塩田街道地域のまちづくり目標

【地域の将来像】

地域の生活文化と非日常の都市魅力が融合し、 社会的・文化的価値を生み出す広域交流のまち

嬉野市街地地域は観光交流都市・嬉野の中心となる地域であり、九州新幹線嬉野温泉駅の開業を見据え、観光客など外部からの人や財の流入を促すと同時に、嬉野の地域資源や市民の生活文化を基盤とし、新たな社会的・文化的価値を発信する広域的な都市活動の拠点を目指します。

（4）地域づくりの目標

魅力ある地域文化を磨き発信するまちづくり

歴史的町並みと地域の産業文化、並びに田園と背後の山々で構成された自然と調和したパノラマの風景を活かし、北部九州観光における来訪目的となる文化創造・発信の拠点を目指します。

- 長崎街道の歴史的町並みの保全・再生・創生による価値創造型の地域づくり
- 地域資源・特性を活かした地元就業型の自立型経済システムづくり

歴史をめぐり、文化とふれ合えるまちづくり

嬉野温泉と連携し、窯業場や造り酒屋など地域の文化を開放し、地域の生活様式や風土を体感できる観光地を目指します。

- 新たな観光需要の取り込みに向けた体験型観光地づくり
- 訪れる人が安心して滞在・観光できる都市基盤・環境の整備

独自性のある文化的な生活環境のまちづくり

魅力的なまちの雰囲気と、地域のアイデンティティ、地域資源を活かし、地域住民が主体となって、その歴史・文化を守り育てていく生活の場を目指します。

- 地域の生活・習慣・行事などの生活文化を大切に「他とは違う」拠点地区づくり
- 地域の生活文化の背景となる自然との共生・共存に向けた生活維持の基盤づくり

（5）塩田街道地域のまちづくり基本方針

本地域は国道498号を軸として開発や施設立地が進み、塩田津伝建地区など長崎街道の歴史・文化資源が点在する状況を踏まえ、地域自らが主体となって旧街道の記憶（地域性）を活かしながら生活文化を育て・発信するまちづくりを推進します。

D：防災ハザードマップ

(1) 浸水ハザードマップ

塩田庁舎周辺から東側の地区では、広範囲に浸水想定区域が指定されています。

浸水想定区域図は、水防法の規定に基づき想定し得る最大規模の降雨により、浸水が想定される区域や浸水した場合に想定される水深を表示したもので、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により塩田川、鹿島川、六角川が氾濫した場合の浸水状況をシミュレーションにより予測したものです。

このシミュレーションについては、支川の決壊による氾濫、前提となる降水量を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等は考慮されていないので、この洪水浸水想定区域に未指定の区域においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際的水深と異なる場合があります。

想定的前提となる降水量は、塩田川流域の6時間雨量504mm、鹿島川流域の6時間雨量575mm、六角川流域の6時間雨量424mmとしています。

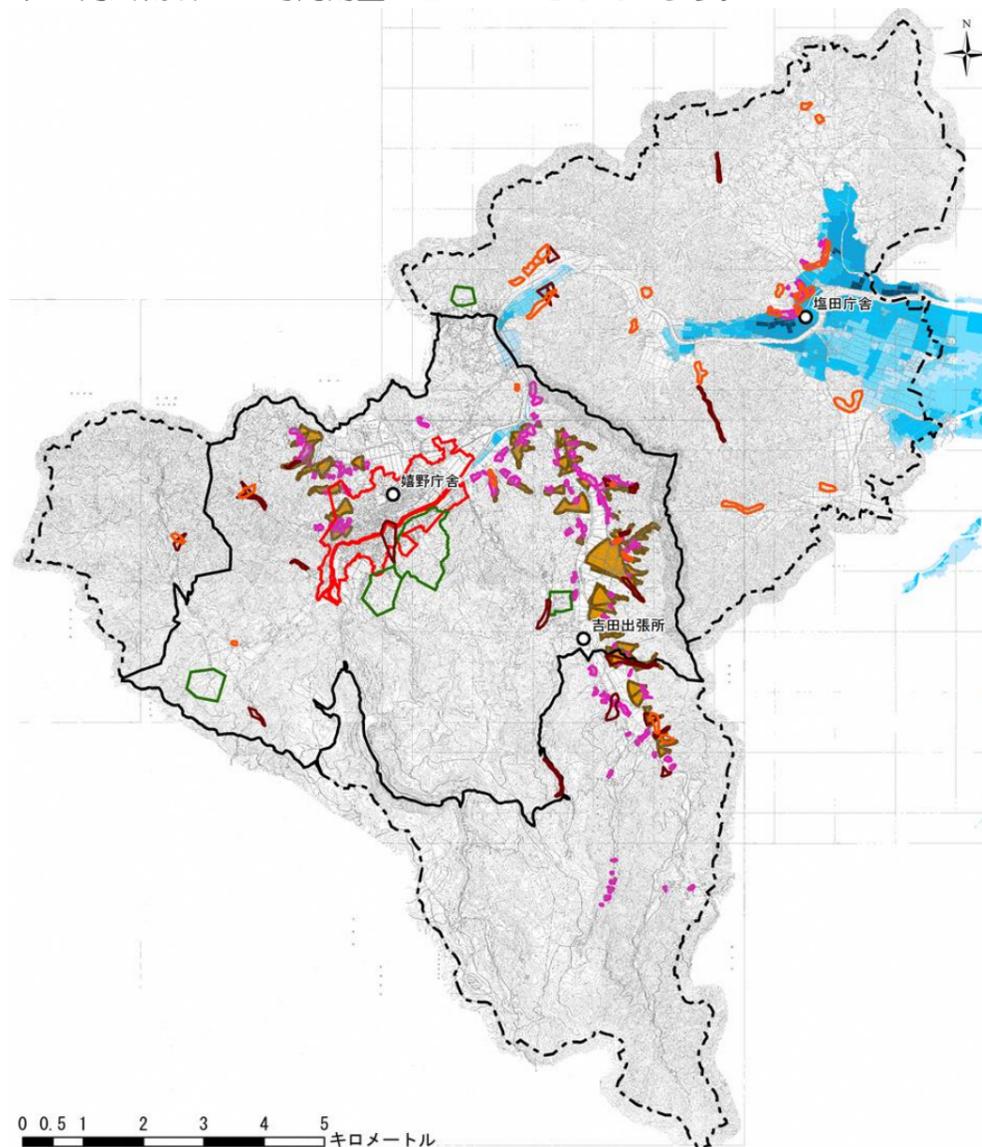


図 浸水ハザードマップ

(2) 地震ハザードマップ

嬉野市内の地震解析によると、塩田庁舎周辺は、震度6強の揺れが想定されています。(嬉野庁舎付近は震度5強の揺れ)

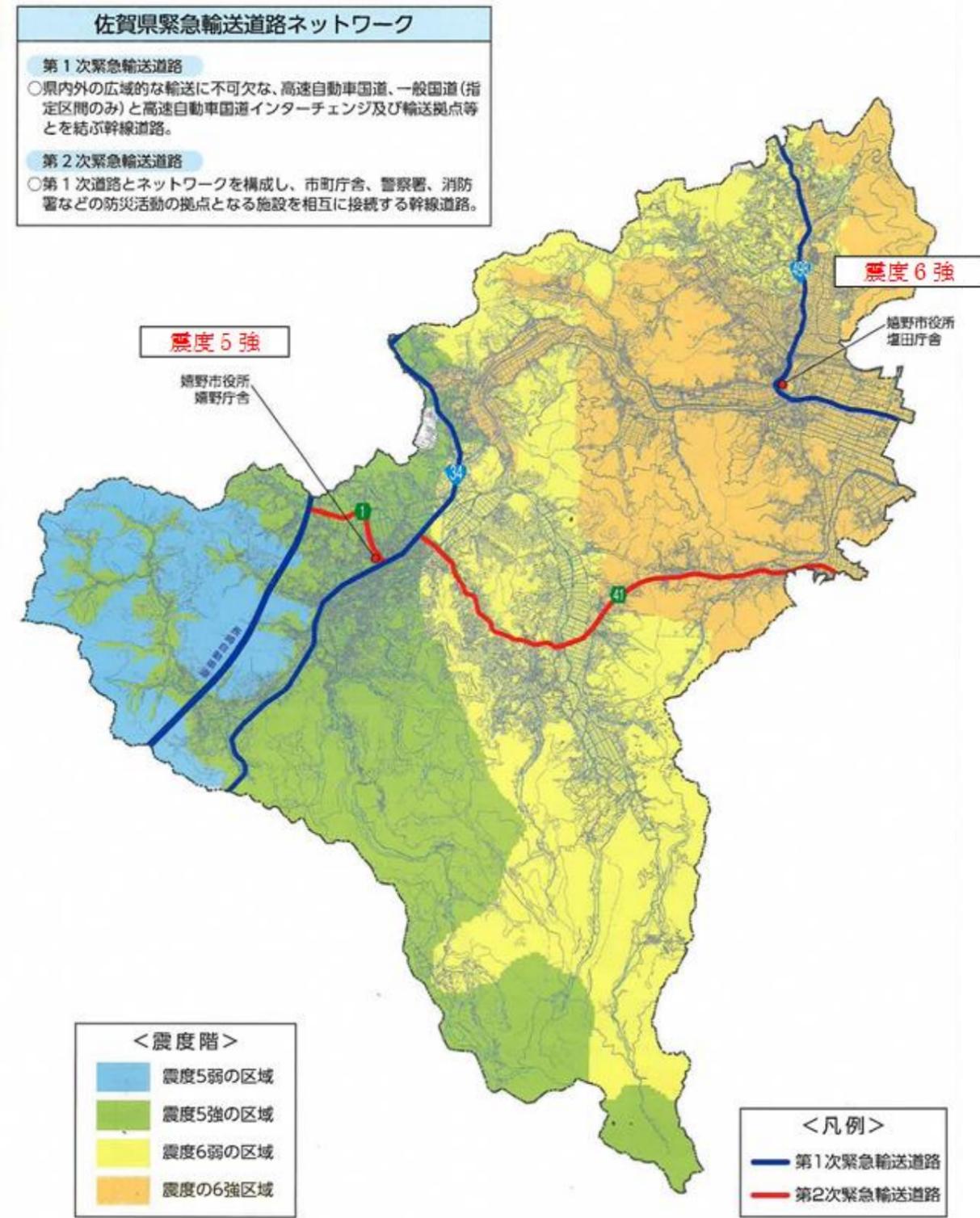


図 地震ハザードマップ